

## 26 パリ大学旧医学部大円形講堂にある

## 壁画について

清水 陽 人

これは、エドワード・ザイドラー著、大塚恭男訳の『医学史の旅（ヘパリ）』にわずか一行だけ紹介されているが、一八九〇〜一八九五年画家 Léon Pierre Urbain Bourgeois によって描かれたフレスコ大壁画である。しかしこの画家がいかなる意図をもって医学史上の巨匠といわれる一体誰を、またどのように描いているのかは、この画家のプロフィールをも含め今まで全く不明のままであった。

大壁画の前身は、旧医学部大入場門の上部を飾る Pierre-François Berruer 作の浅浮雕『新外科学校創設を決定す』慈善 La Bienfaisance ordonne la construction des Écoles de chirurgie』の端緒とみなした Esprit-Antoine Gibelin による『新外科学校創設を決定するルイ

十五世 Louis XV ordonnant la construction des Nouvelles Écoles de chirurgie』にはじまり、これはその後フランス革命前、同じく Gibelin による三つの部分からなるフレスコ大壁画によって置き替えられた。左翼は『祖国防衛に捧げられた出血を止める人々 Ils étanchent le sang consacré à la défense de la Patrie』、中央は『帝王の慈善がその進歩を早め彼等の熱意を褒賞する La Bienfaisance du Monarque hâte leurs progrès et récompense leur zèle』、右翼は『われわれに広めた基礎概念を神々から受け継ぐ人々 Ils tiennent des Dieux les principes qu'ils nous ont transmis』であり、一八六四年まで約八〇年にわたって大講堂の壁画として飾られてきた。しかしまたこの前記碑文は、現実の壁画を前に見る者としてその場に立った者ならば読まざるを得ないのであるが、この中の登場人物は、未だに理解不明のままその引用の伝説も謎とされている。しかし一八六四年この Gibelin による大壁画は、当時の美術大臣の命により画家 Louis Matout に託され、その彼の描いた壁画によって替えられた。これもまた三つの部分からなってい

たが、中央は『切断術後、動脈結紮をはじめて施行するアンブロアズ・パレ Ambroise Paré appliquant pour la première fois la ligature aux artères après une amputation』左翼はミラノの医学者 Lanfranc による講義場面『十三世紀の医学口頭教育 L'enseignement oral de la médecine au XIII<sup>e</sup> siècle』右翼は周辺の学生に教えつつ Desault みずから考案した大腿骨骨折の持続牽引包帯を施した患者の脈をとっている臨床場面『十八世紀の臨床教育 L'enseignement clinique au XVIII<sup>e</sup> siècle』である。しかしこの Matout の絵は、一八八九年十月十五日の大火災によって消失した。

画家 Bourgeois は、一八四二年 Nevers (Clermont-Ferrand の北約一三〇キロ) で出生。一八六一年美術学校入学。一八六三年ローマ賞美術、建築、音楽の分野で、入賞者にはローマ留学の特典があった(二等賞を受賞している)。一方このフレスコ大壁画は、『HISTOIRE DE LA MEDECINE』と題され、古今東西の医術に因んだ五十六名の学者、医師、生理学者の集合を明解な姿で表現したものであり、人物を通して医学の歴史を辿りながら年時

的移推をさまざまげないよう、また絵画的美しさをもそこなくことなく各群像が描かれている。当時の日刊新聞 Le Soleil 紙は以下のように論評している『……要は、この非常に異った当時の服装をまとったちぐはぐな歴史上の登場人物の集合が、巧みに按配され、移り変ってゆく中で、この一人の画家が完璧なまでにそのむずかしい微妙な調和を保ち続けた点に注目するならば、これはこれで十分なことだと言える。しかし残念に思うのは、この集合の中で女性の顔が一人も見えないことである……たとえば一人の美しい女性 Novella はどうであろうか……』(一八九五年十一月十二日)

今回は、これら壁画を中心にスライドで見ながら、五十六人の巨匠とその関係、またヒポクラテス以来、医学のシンボルである「こうのとりの楯形紋の下に刻まれた八枚の大医学校の歴史的地名、寓話的に添えられた八種の薬用植物等について述べる。

(新潟市)